

2020年度

中河内二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

1 中河内二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 診療実態の分析の結果

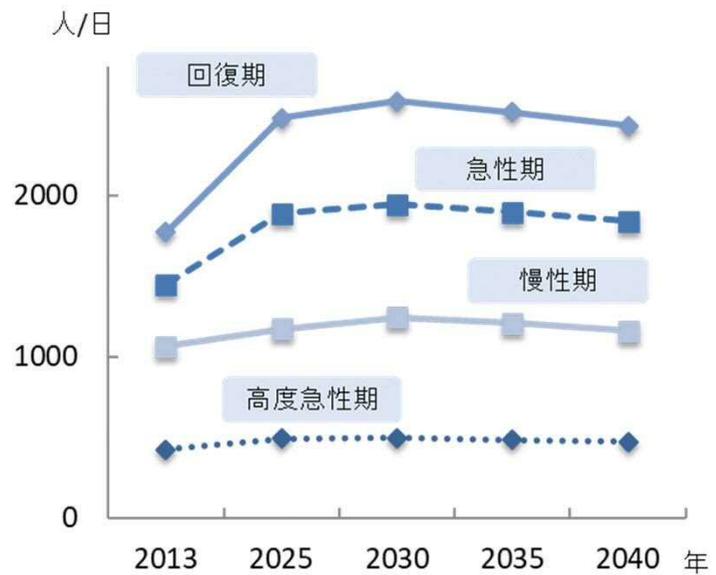
2 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している病床機能
- (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

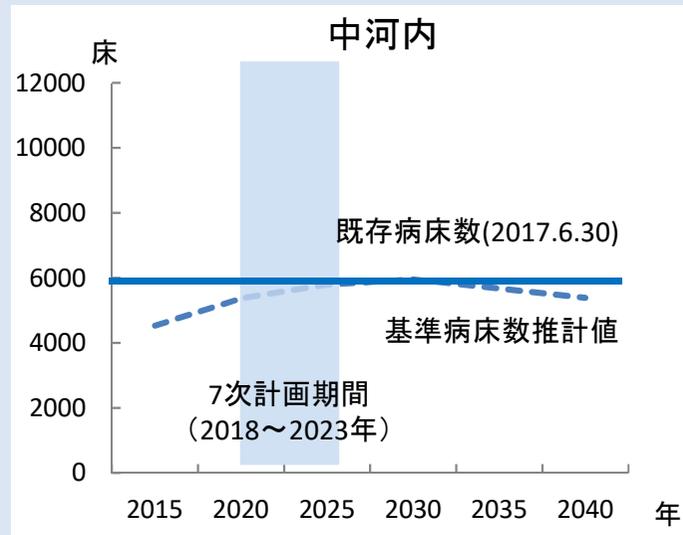
1 中河内二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

中河内二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



▶ 基準病床数の将来見込みにおいて、2030年に、既存病床数を上回る可能性あり

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	421	493	1.17	495	1.17	483	1.15	471	1.12
急性期	1,449	1,890	1.30	1,945	1.34	1,898	1.31	1,841	1.27
回復期	1,774	2,483	1.40	2,585	1.46	2,519	1.42	2,436	1.37
慢性期	1,062	1,173	1.10	1,246	1.17	1,210	1.14	1,159	1.09
合計	4,706	6,039	1.28	6,271	1.33	6,110	1.30	5,907	1.26

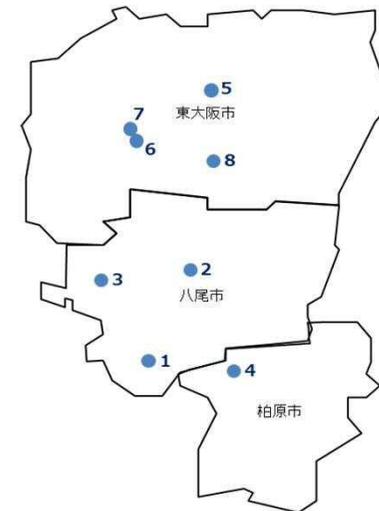
参照：第7次大阪府医療計画 一部改編

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

中河内二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が3病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が1病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン にかか る補 足調 査対 象	公的医療機関等2025 プラン 対象 病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院	
八尾市	社会医療法人医真会医真会八尾総合病院					○												
	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院								○	○								
	八尾市立病院	○			○		○			□				○				
柏原市	市立柏原病院	○					○			○								
東大阪市	医療法人藤井会石切生喜病院									○								
	大阪府立中河内救命救急センター						○				○	○						
	市立東大阪医療センター	○			○	○				□		○	○					○
	社会医療法人若弘会若草第一病院		○		○	○			○	○								
合計		3	1	0	3	2	4	0	2	6	1	2	0	2	0	0	0	1



2020年10月末時点
【対象病院数31の内訳】
公立病院：3
公的病院：1
民間等病院：27

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

参照：第7次大阪府医療計画一部改編

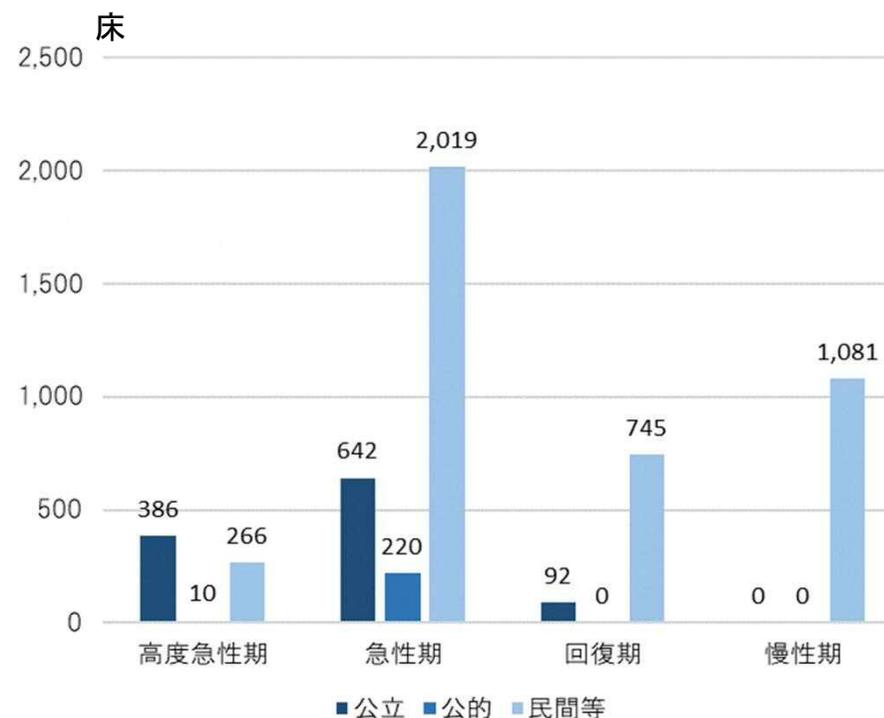
1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

圏域内の病床数の割合は、公立病院20.5%、公的病院4.2%、民間等病院75.3%であり、回復期と慢性期の約95%を民間等病院が担っている

●病院プラン調査等提出

公立・公的・民間等	対象病院数	提出病院数	提出率
公立	3	3	100
公的	1	1	100
民間等	27	27	100
合計	31	31	100

●病床機能別病床数

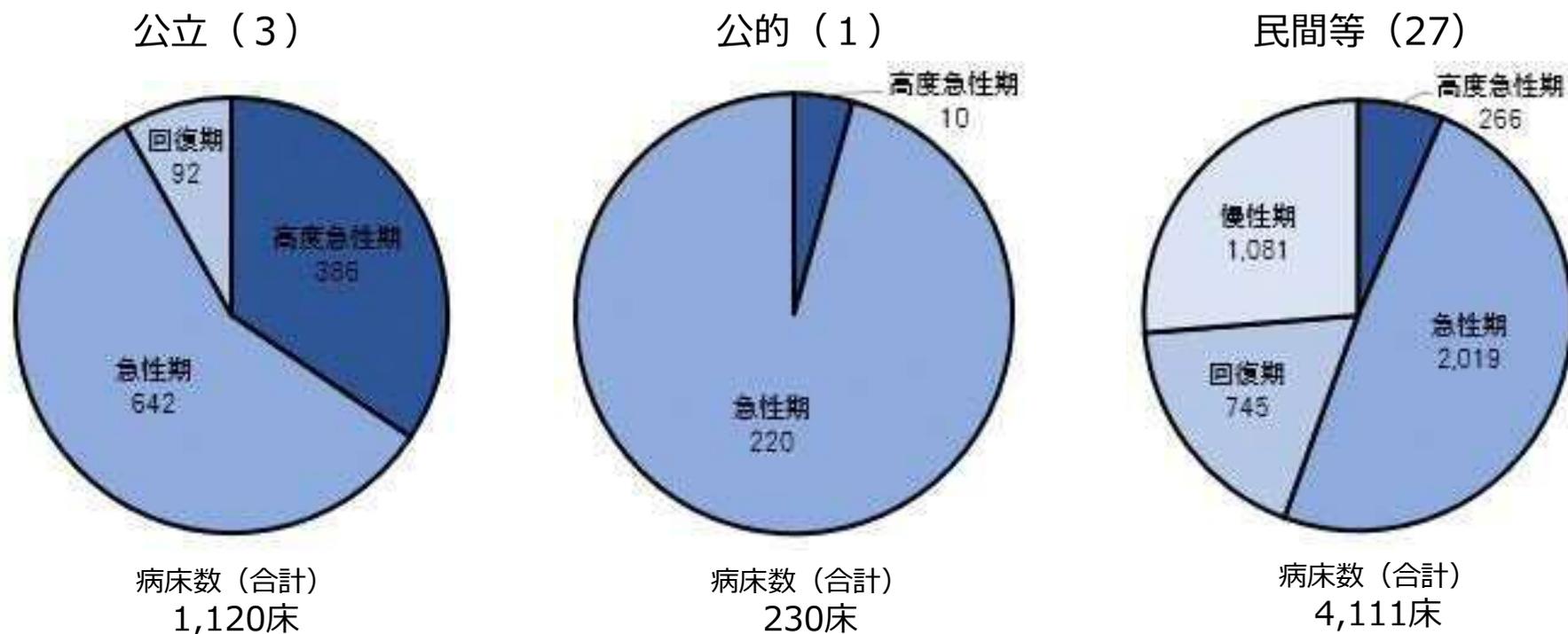


参照：2020年度病院プラン調査等

① 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的病院の病床機能は、約93%が高度急性期と急性期で民間等病院は急性期が49%、回復期18%、慢性期26%である

● 公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出31病院(公立3、公的1、民間等27))



参照：2020年度病院プラン調査等

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要④(公民別病床機能)

全病床数5,461床の内訳は、約61%が東大阪市保健所管内、約34%が八尾市保健所管内、約5%が藤井寺保健所管内

●【参考】保健所管内別病床機能別割合

病床機能別病床数【令和2年】(東大阪市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	222	273	25	0	520
公的	10	220	0	0	230
民間等	51	1,146	526	876	2,599
計	283	1,639	551	876	3,349

病床機能別病床数割合【令和2年】(東大阪市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	42.7%	52.5%	4.8%	0.0%	100%
公的	4.3%	95.7%	0.0%	0.0%	100%
民間等	2.0%	44.1%	20.2%	33.7%	100%
計	8.5%	48.9%	16.5%	26.2%	100%

病床機能別病床数【令和2年】(八尾市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	160	220	0	0	380
公的	0	0	0	0	0
民間等	215	813	219	205	1,452
計	375	1,033	219	205	1,832

病床機能別病床数割合【令和2年】(八尾市保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	42.1%	57.9%	0.0%	0.0%	100%
公的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
民間等	14.8%	56.0%	15.1%	14.1%	100%
計	20.5%	56.4%	12.0%	11.2%	100%

病床機能別病床数【令和2年】(藤井寺保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	4	149	67	0	220
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	60	0	0	60
計	4	209	67	0	280

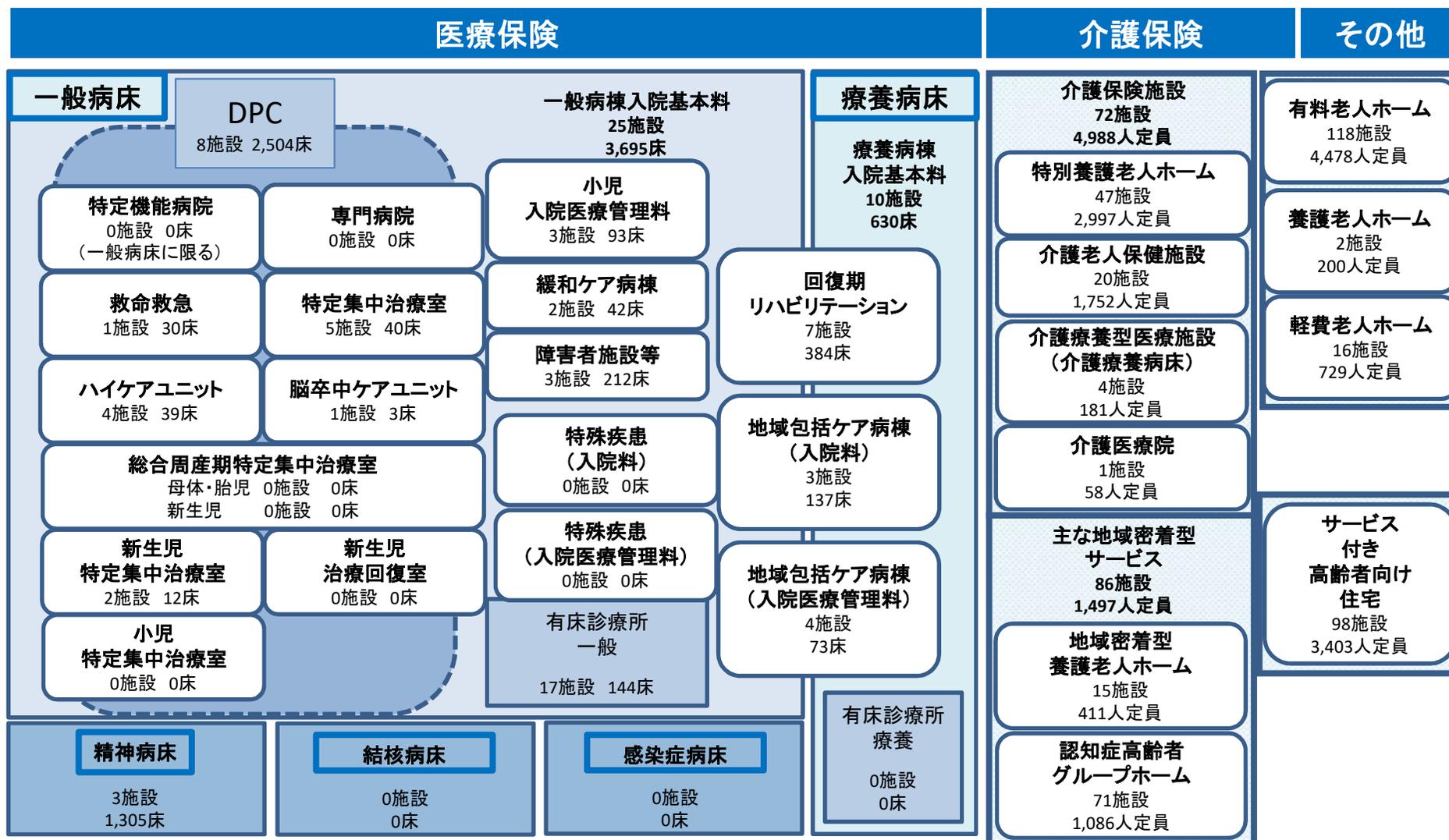
病床機能別病床数割合【令和2年】(藤井寺保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	1.8%	67.7%	30.5%	0.0%	100%
公的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
民間等	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
計	1.4%	74.6%	23.9%	0.0%	100%

参照 2020年度病院プラン調査等

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑤(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されている

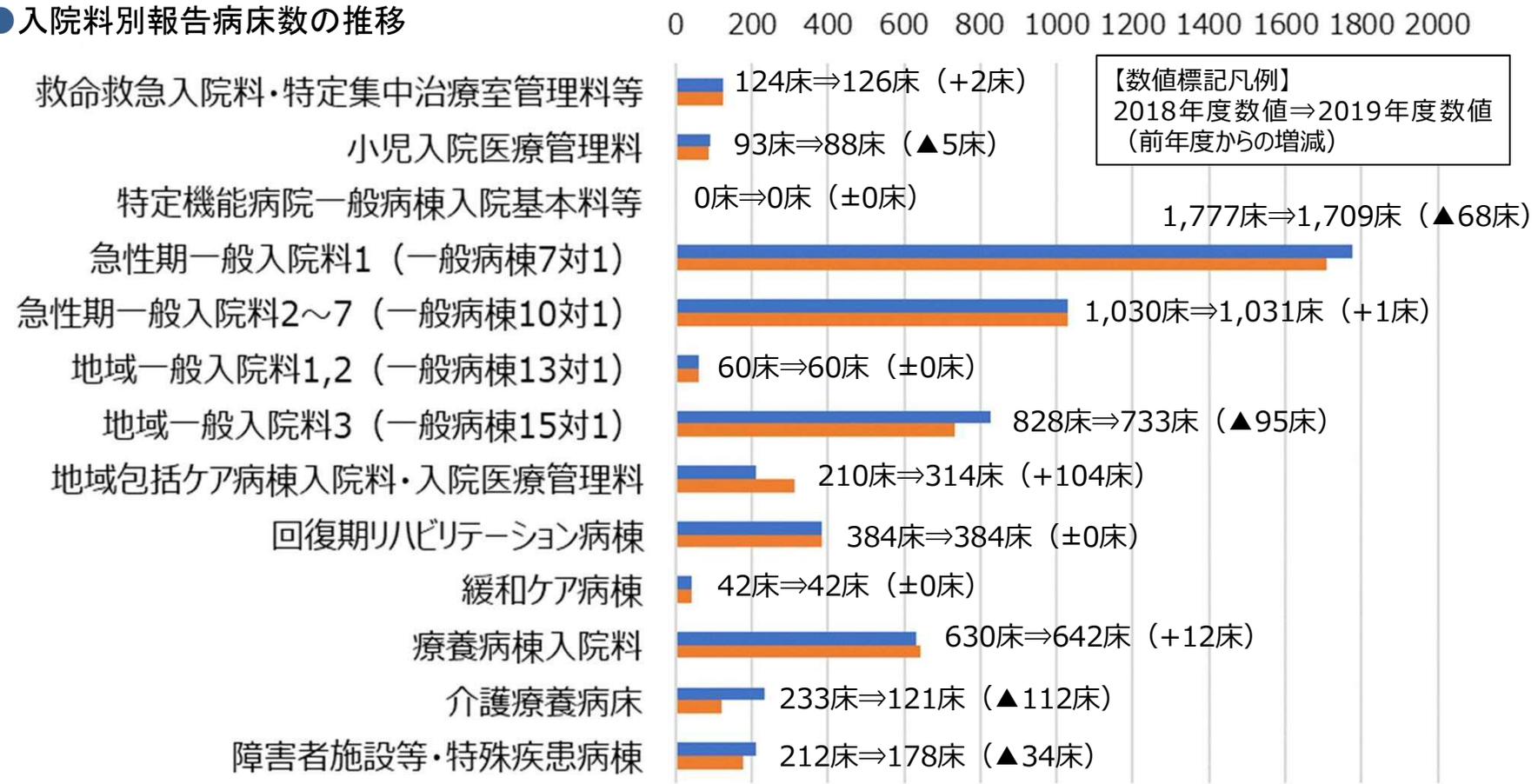


出典 「医療保険」病床機能報告(2017年7月1日時点の医療機能:2018年10月集計)ただし、次項目は右記のとおり、精神病床・結核病床・感染症病床(大阪府健康医療部資料(2019年3月31日現在))「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームは2018年1月1日現在、その他施設は2019年4月1日現在)

1 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑥(入院料別の経年変化)

入院料別の報告病床数は前年度と比べ、急性期一般入院料1、地域一般入院料3、介護療養病床は減床し、地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料が増床している

●入院料別報告病床数の推移



■ 2018 ■ 2019

出典 病床機能報告 (2018暫定集計、2019最終集計)

① 中河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑦(転換補助金)

中河内二次医療圏においては、6病院に対し交付実績があり
2019年度は2病院に対して交付実績がある

病床転換促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	7	6	0	315	285	0
2019年	8	4	1	256	44	6
合計	30	21	6	1096	636	166

中河内

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	1	1	1	25	25	25
2016年	0	0	0	0	0	0
2017年	1	1	1	17	17	17
2018年	2	2	0	70	70	0
2019年	2	1	1	66	6	6
合計	6	5	3	178	118	48

1 中河内二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果

**病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、
中河内二次医療圏で約14.3%程度同機能への転換が必要と推計**

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	562	1,857			1,971	1,155			5,545
病床機能報告	2014	163	3,527			427	1,375	0	487	5,979
病床機能報告	2015	490	3,387			508	1,257	32	224	5,898
病床機能報告	2016	460	3,453			624	1,051	14	276	5,878
病床機能報告	2017	682	3,401	2,245	17	1,139	657	14	2	5,880
病床機能報告	2018	622	3,146	2,124	155	867	770	74	0	5,784
病床機能報告	2019	624	3,054	2,496	0	558	814	67	11	5,614
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	518	1,913			2,177	1,006			5,614
病床数の必要量【オリジナル】	2025	657	2,424			2,759	1,275			7,115

● 病床機能報告（2019年度）と病床数の必要量（2025年）の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期			
病床機能報告	2018	10.8%	36.7%	2.7%	15.0%	13.3%	20.3%	1.3%
病床機能報告	2019	11.1%	44.5%	0.0%	10.0%	14.5%	18.6%	1.2%
病床数の必要量	2025	9.2%	34.1%		38.8%	17.9%		



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告(地域急性期+回復期)

2018年度	28.3%
2019年度	24.5%

② 病床数の必要量(回復期)

38.8%

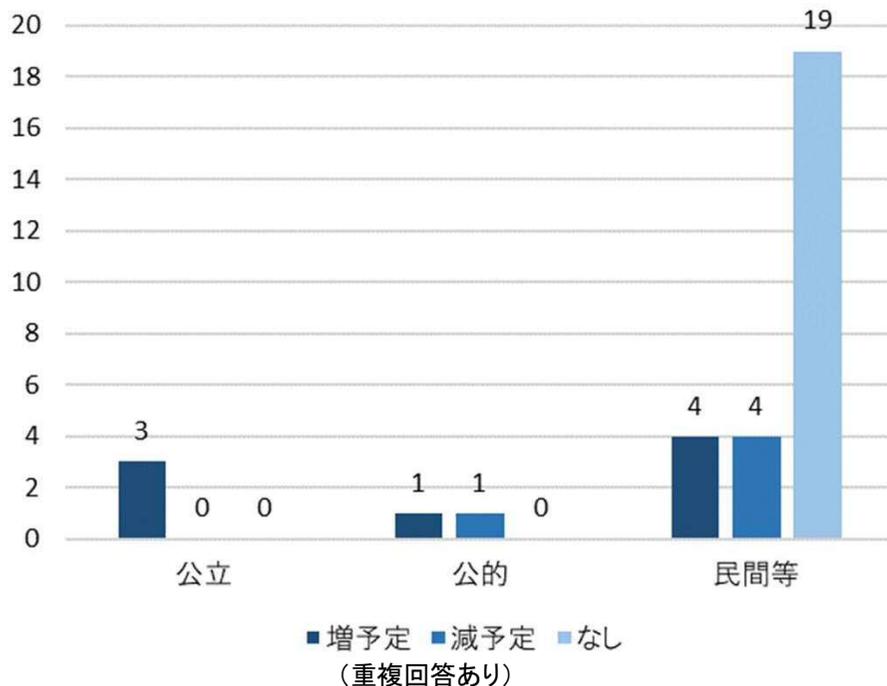
割合の差
14.3%
(約800床)

2 将来のあるべき医療体制に向けて

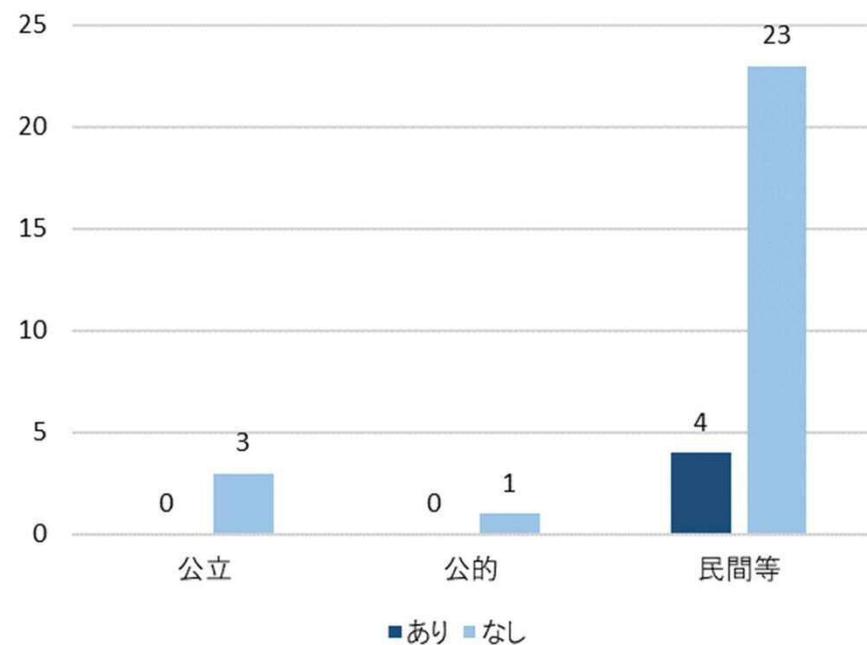
(1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等①

診療科の見直しは8病院が増加、5病院が減少を予定している
2025年までの病院の建て替えを4病院が予定している

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 2025年までの建て替えの検討の有無



参照 2020年度病院プラン調査等

2 将来のあるべき医療体制に向けて

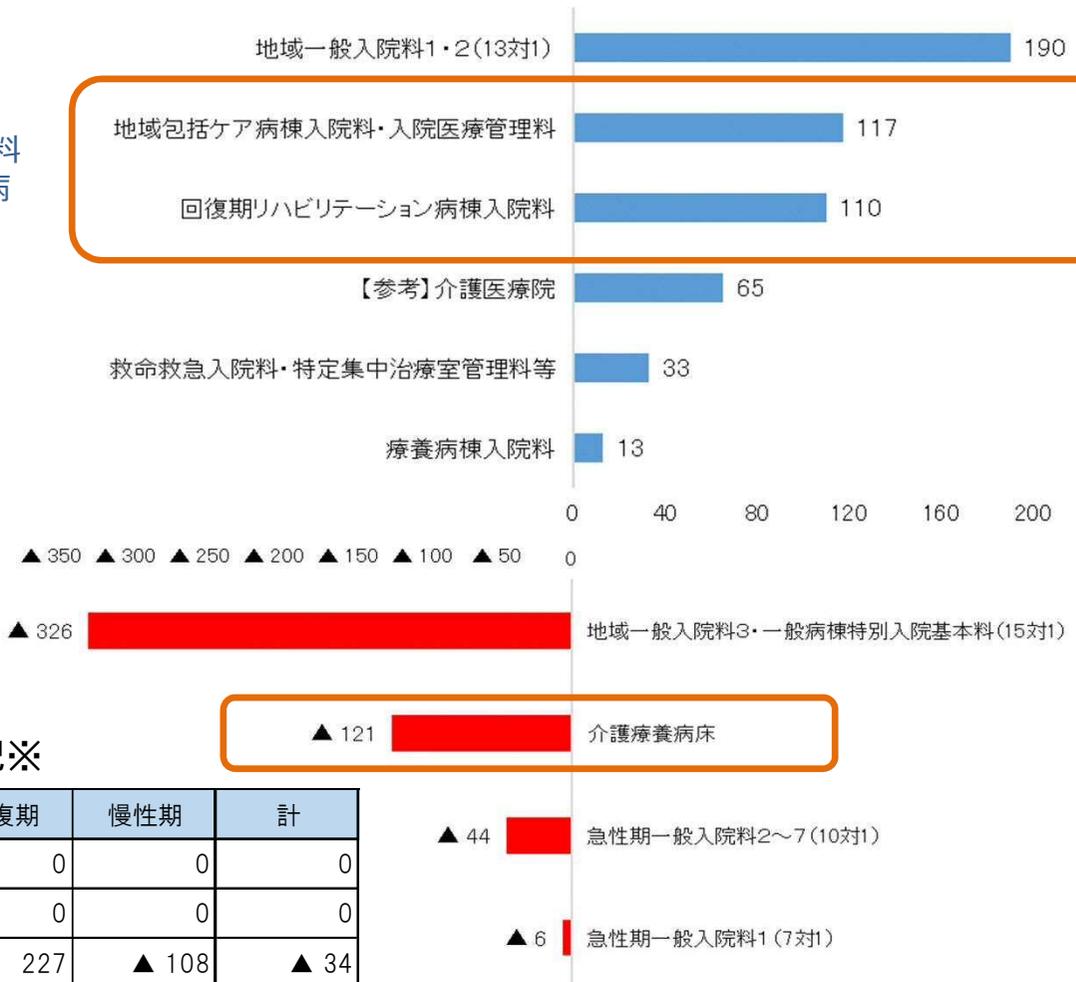
(1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能・病床機能等②

各病院が検討している病床機能等の変更は、「地域包括ケア病棟」や「回復期リハビリテーション病棟」の増床の方向となっている

●入院料別の検討状況※

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	27	▲ 180	227	▲ 108	▲ 34
計	27	▲ 180	227	▲ 108	▲ 34

2 将来のあるべき医療体制に向けて

(1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等③

回復期病床への転換の他、東大阪市保健所管内で介護医療院への転換、八尾市保健所管内で休床の再稼働が計画されている

●【参考】保健所管内別病床機能の検討状況※

病床機能別増減表(中河内:東大阪市保健所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	30	▲ 104	94	▲ 85	▲ 65
計	30	▲ 104	94	▲ 85	▲ 65

病床機能別増減表(中河内:藤井寺保健所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0

病床機能別増減表(中河内:八尾市保健所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	▲ 3	▲ 76	133	▲ 23	31
計	▲ 3	▲ 76	133	▲ 23	31

※回復期の133床のうち元々急性期であった休床中の57床と高度急性期3床が回復期病床として転換される予定であり、実質的な総病床数は26床の減少となる。

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している 入院料別(病床機能別)病床数総計から各病院の現在の入院料別(病床機能別)病床数の総計を差し引いて算出)

参照 2020年度病院プラン調査等

2 将来のあるべき医療体制に向けて

(2) 2025年に向け各病院が検討している病床機能のまとめ

- 将来に向けて「地域包括ケア病棟」「回復期リハビリテーション病棟」の病床数は増加する方向にある。

【参考】

平成30年度第2回病院連絡会での意見の概要

- 中河内二次医療圏の「高度急性期」と「急性期」の病床を維持し、圏域内の医療の完結について検討していく必要がある。
- 回復期の病床機能の確保については、「高度急性期」と「急性期」の圏域内の必要量と、介護医療院への転換にともなう病床の減床を考慮して検討する必要がある。